

1964年春北海道に流行したインフルエンザについて

桜田 教夫^x

わが国における1964年のインフルエンザの流行については1月下旬に九州および山口県を中心とするB型の流行、2月に東京都および神奈川県より始まったB型の流行および新潟県にみられたA2型による流行等が知られているが1)、北海道においてはこれらと異つた流行像がみられた。すなわち流行は2波に分けられ、第1波は2月上旬から中旬にわたり、第2波は4月中旬から6月上旬までにいづれも全道的な流行が認められた。ウイルス分離は不成功に終つたが血清学的検査によつて第1波では一部にC型、第2波ではA2およびB型による流行であつたことが明らかになされた。

材料および方法

実験に用いた材料はすべて流行地区の保健所が患者より採取し、当研究所に送付したものである。ウイルス分離に用いたのは急性期患者のうがい液であり、血清学的検査に用いたのは急性期および回復期のペア血清である。

検査方法は衛生検査指針²⁾に準じた。ウイルス分離はもつばらふか鶏卵の羊膜腔内接種により、血清学的検査にはHIテストを使用した。HIテストの抗原にはA2型としてA/小樽/1-59株³⁾、B型としてはB/世田谷/56株、C型としてはC/山形/1-64株を使用した。

C/山形/1-64株は1964年2月に山形市内の病院看護婦より分離され⁴⁾、東北大学医学部細菌学教室および国立予防衛生研究所において同定された。本株はふか鶏卵の羊膜腔においてのみよく増殖し、実験に使用した際の赤血球凝集価は >2048 倍であつた。またC株は室温におけるよりも4℃前後で高い凝集価を示す⁵⁾性質があるのでHIテストは4℃において実施した。

実験結果

1. ウイルス分離

2月上旬から中旬にかけて採取されたうがい液の採取地区保健所と件数は次の通りである。中標津10浦河9、夕張6、静内20、千才12、木古内4、釧路14、旭川11、稚内10計96件。また4月から6月にわたつて検体を採取した保健所と件数は稚内21、室蘭12、紋別26、中標津20、標茶16、夕張11、小樽9、渡島10、森16計141件である。

これらの採取地区の地理的分布をみると第1波、第2波ともに北海道全地域に流行が波及していたと

推察される。総計237件のうがい液をふか鶏卵を使用してウイルス分離を試みたが全部陰性であつた。

2. 血清学的検査

血清を送付した保健所と急性期血清の採取時期およびHIテストの成績を示したのが第1表である。また地図の上で血清の採取地と検査結果(陽性のみ)を示したのが第1図および第2図である。

第1表 39年春インフルエンザHI testの結果

H.C.	採取月日	陽 性			陰性	計
		A2	B	C		
中標津	2月7日	0	0	1	6	7
新得	不明	0	0	0	3	3
浦河	2月7日	0	0	0	10	10
夕張	2月10日	0	0	0	6	6
静内	不明	0	0	0	19	19
千才	2月13日	0	0	0	9	9
今金	2月3日	0	0	0	5	5
釧路	不明	0	0	4(1)*	10	14
旭川	不明	0	0	0	8	8
稚内	2月14日	0	0	0	9	9
室蘭	4月18日	4(1)	0	0	3	7
紋別	不明	0	5(2)	0	4	9
中標津	4月15日	4(2)	0	0	5	9
中標津	4月14日	3(1)	0	0	6	9
砂川	4月25日	0	5(3)	0	4	9
標茶	5月9日	0	1(1)	0	5	6
紋別	5月16日	0	0	0	4	6
夕張	5月20日	0	8(4)	0	2	10
紋別	5月22日	8	0	0	1	9
小樽	5月27日	3	0	0	1	4
渡島	5月28日	0	8(2)	0	2	10
森	6月1日	0	6(2)	0	10	16
紋別	5月25日	6(1)	0	0	1	7
岩見沢	不明	7(1)	0	0	3	10
静内	不明	0	9(3)	0	2	11
計		35(6)	44(17)	5(1)	138	222

* かつこの数字は疑似陽性の件数を示す

すなわち2月上旬から中旬には中標津、新得、浦河、夕張、静内、千才、今金、釧路、旭川、稚内の10保健所において90件のペア血清を採取しHIテストを実施したが、A、B型には全部陰性であつたがC型に対して有意の抗体上昇を示した5件の血清が認められた。

x 北海道立衛生研究所

かけてA、B両型の流行が報告されている。このことからわが国の気象条件がインフルエンザ流行にも影響を与えるものと考えられ、流行の伝播その他に地理的条件も考慮に入れなければならないことを示唆している。

結 論

1964年2月と4月から6月にわたつて北海道の各地で集団感冒の発生がみられた。流行地区の保健所が採取した患者材料からウイルスは分離出来なかつたが、血清学的検査によつて4月から6月までの流行はインフルエンザA2およびB型によるものであることが分つた。

なお2月の流行の際に採取した患者血清の一部にインフルエンザC型に対する陽性血清が認められた。

稿を終えるに臨み、検体の採取に協力された道衛生部保健予防課、保健所の各位およびC型株を分与下さつた山形県衛生研究所長熱海明博士に感謝致します。

文 献

- 1) 福見秀雄：日本医事新報、2121、3-9 (1964)
- 2) 厚生省編纂：衛生検査指針、1(VI)、(1957)
- 3) 桜田、奥原、飯田：北海道立衛生研究所報、11、39-42、(1960)
- 4) 山形県衛生研究所：昭和39年度伝染病流行予測事業北海道東北地区打合せ会議資料
- 5) George K. Hirst; Jr. *Exper. Med.* 91, 177 (1950)

Studies on the influenza epidemic in Hokkaido in the spring, 1964

Norio Sakurada

Two outbreaks of influenza were noted in Hokkaido from the initial appearance in February to the termination in June in 1964.

In February, serologic evidence indicated that only five patients were infected with influenza C.

From April through June, the etiologic role of influenza A and B was serologically confirmed with the hemagglutination-inhibition technique.

No virus was discovered from the throat specimens.